

**主 題：神によるさばき 1 ノア**

**聖書箇所：ルカの福音書 17章26-27節、創世記 6章5-8節**

今日から私たちは、神が下されたいろいろな「さばき」について、ごいっしょにみことばを学んでいきます。

**A. 「神の下されたさばき」について**

今日は、ルカの福音書17章26-27節を学びますが、ここには洪水による神のさばき、あのノアの洪水のことが記されています。そのとき、ノアの家族以外、すべての人類は洪水によって滅ぼされました。神が警告されたそのさばきが、実に、この地上に起こったのです。26-27節にはこのように記されています。「:26 人の子の日に起こることは、ちょうど、ノアの日が起こったことと同様です。:27 ノアが箱舟に入るその日まで、人々は、食べたり、飲んだり、めとったり、とついたりしていたが、洪水が来て、すべての人を滅ぼしてしまいました。」と。確かに、このような神の審判がなされたということは、皆さんご存じです。なぜ、私たちが今の時代にこのさばきについて学ぶのか？それは、実は、みことばをご存じの皆さんは、新たな神のさばきが約束され警告されていることをご存じのはずだからです。神のさばきは全部終わったのではありません。この後、さばきがまた来ると神は警告をしています。

Ⅱペテロ3:6に「当時の世界は、その水により、洪水におおわれて滅びました。」とあります。ノアのことです。続いて7節「しかし、今の天と地は、同じみことばによって、火に焼かれるためにとっておかれ、不敬虔な者どものさばきと滅びとの日まで、保たれているのです。」、信仰者の皆さん、私たちはこうして神が言われていることを学んでいます。しかし、今、多くのキリスト教会にあって、このようなさばきのこと、罪のこと、永遠の地獄のことを語ることは歓迎されていません。そんなことよりももっと楽しいこと、どうすればもっと人間関係を上手く確立することができるか？というような話に牧師たちのメッセージが変わって来ています。このような教会の動向を見たときに私たちが感じることは、まさに、パウロ自身が警告したように、世の終わりになっていくと教会員が聞きたいことを語る牧師たちが増えていくということです。私たちの務めは、神が言われていることをその通り学ぶことであって、どの時代にあって、私たちが学ぶべきメッセージのひとつは「神からの警告」です。神のさばきがあるということです。ですから、私たちはいろいろな聖書の箇所から神の様々なさばきを見ていきます。

その多くはこれまでに起こった神の審判です。今日、私たちが見るのは洪水を通して神がなさった審判ですが、テキストを見ると、主イエス・キリストはこの26節で「人の子の日に起こることは、ちょうど、ノアの日が起こったことと同様です。」と語っておられます。主イエス・キリストはこれから起こるさばきに関して、人々に警告を与えておられたのです。この「人の子の日」とは、主イエス・キリストによるさばきのことです。そのことをノアの洪水という出来事を用いて教えているのです。ノアの洪水が事実であったように、あのようにして人類がさばかれたように、必ず、イエス・キリストによるさばきがあるということを人々にお教えになったのです。この26-27節から私たちは二つのことに目を留めなければいけません。

1) さばきの現実性 26節 : 必ず神のさばきがある

このことは聖書が私たちに警告し続けていることです。

2) さばきの切迫性 27節 : その日が近い

ということは、私たち一人ひとり、その日のための備えをしていなければいけません。いつその日が来るか分からないからです。実は、あのノアの洪水の様子を見る時に、神によってさばかれた人々は、悲しいことに、さばきのための備えをしていませんでした。ですから、今日私たちは、「神のさばきに対する備え」ということを、ノアの時代の人々の失敗を通して学んでいきます。なぜ、彼らがさばかれたのか？そのことを見ることによって、私たちはそのようなさばきに会わないための備えをすることができるからです。

**B. 彼らがさばかれた理由**

人々の神に対する大きな罪が原因であったことは明らかですが、どのような罪だったのか？

1. 無関心の罪 27節

彼らは神のさばきに対する備えをしていませんでした。言い方を変えるなら、主にお会いする備えが出来ていなかったということです。その当時の人々は「食べたり、飲んだり、めとったり、とついたりしていたが、」と27節で教えています。このことばの時制を見ると、その当時の人たちがこのようなこと

を継続して行ない続けていたということを知ることができます。ノアの時代において、人々は食べたり飲んだり、そして、結婚したり、妻をめとったり、そして、娘をとつがせたりと、そのようにしていたと書かれています。このような出来事のそれ自体は罪ではありません。私たちはみな食べたり飲んだりします。でも、問題は、彼らはそのようなことだけに心を払って、もっと大切なことに心を払わなかったということです。私たち人間にとって一番大切なことは、私たちひとり一人を造られた神に会うための備えをしておくことです。

どの時代であっても、私たちはそのことを主から命じられているのです。「主に会う備えをしていなさい。神に会う備えをしていなさい。」と。この人たちを見た時に、彼らがしていることは罪ではなかったけれど、彼らは一番大切なことを見落としていたのです。日々の生活のことにだけ心を払って、その先のことには心を払っていませんでした。地上のことだけを考えていて、その先の永遠について全く考えていなかった、それが問題だったのです。でも、これはノアの時代の人たちだけの問題ではありません。恐らく、これはどの時代でも同じでしょう。世の中はこのような人たちで満ちています。

思い出しませんか？イエスがあるたとえを話されました。一人の金持ちのことです。それはルカの福音書12章に書かれています。なぜ、イエスはこのようなたとえを話されたのか？ぜひ、覚えてください。内容を覚えていますか？この人の畑が豊作だったのです。12：17から「そこで彼は、心の中でこう言いながら考えた。『どうしよう。作物をたくわえておく場所がない。』：18 そして言った。『どうしよう。あの倉を取りこわして、もっと大きいのを建て、穀物や財産はみなそこにしまっておこう。：19 そして、自分のたましいにこう言おう。「たましいよ。これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ、安心して、食べて、飲んで、楽しめ。」』。「私のこれから先の生活は安泰だ。これだけ食べ物があるから…」と言います。よく考えると、収穫のために一生懸命働いて収穫を得たわけですから、何も問題はありません。この農夫はもちろん勤勉に働いたのでしょう。これはたとえ話ですが、言わんとしていることはよく分かります。勤勉に働き種蒔きをし世話をし、そして、穂が色づき収穫をしたのです。たくさんの穀物を得ることができたのですから、何一つ間違っていないです。では、なぜ、イエスはこのような話をされたのでしょうか？

その理由を見るといいのです。実は、ここに理由が書かれています。このたとえ話の前に起こった出来事が書かれています。イエスの話を聞いていた群衆の中の一人がイエスのもとに来てこのように言います。12：13「群衆の中のひとりが、「先生。私と遺産を分けるように私の兄弟に話してください」と言った。」と。イエスに遺産相続のことを相談するのです。この世に人として来てくださった神であるイエス・キリストその人であるのに、この人物はそのイエスに遺産相続の話を持って来たのです。なぜ、彼はこのようなことをしたのでしょうか？群衆のみなはイエスにお会いしたかった、みなイエスの話が聞きたかった。恐らく、イエスの周りにはいつも群衆がいたので、その中からイエスのもとに行って質問するためには、群衆の中に割り込んでいってやっとイエスに声をかけることができたのでしょうか。その彼の質問が「私と遺産を分けるように私の兄弟に話してください」ということだったのです。

この人は何とかイエスの元に行き頼んだなら自分は遺産を受けられる、兄弟が自分に遺産を分けてくれると思ったのでしょうか。イエスが自分の兄弟に話してくれたなら兄弟は「分かった」と言って自分に分けようとするだろう…と。この人の関心は何だったのでしょうか？明白です。遺産のことでした。つまり、彼の関心はお金だったのです。だから、イエスはこう言われます。12：15「そして人々に言われた。「どんな貪欲にも注意して、よく警戒しなさい。なぜなら、いくら豊かな人でも、その人のいのちは財産にあるのではないからです。」と。この人の関心はお金だ。しかし、お金よりももっと大切なものがある。財産よりも、遺産よりもっと大切なものとは「永遠のいのち」だと言われたのです。主イエス・キリストによって与えられる罪の赦し、これが最も大切なものであり、それはどんなものとも比較にならないほど大切なものであるとイエスは言われたのです。

ですから、ノアの時代もしかり、イエスの時代もしかりです。自分にとって何が一番大切なのか？それは、神にお会いする備えを為すということ、自らが死んだ後の備えをしっかりとしていくこと、創造主なる神にお会いしてその方から「よくやった」と誉めて頂く、そのための備えを今しっかりと為しておくこと、それが必要なのです。ところがノアの時代を見たときに、悲しいことですが、彼らがしていることは間違いではなかったけれども、彼らの関心が間違っていたのです。そのような方はこの中にいませんか？あなたは日々の生活のことだけに心を払って、イエスにお会いするその時のことを考えて生きていない。今日何を食べようか？どこに行こうか？何を買おうか？と、そのようなことばかりに心を配っている。どんなものを手に入れたとしても、私たちはこの世を去る時には全部残していくのです。私たちは蓄えるならこの地上にではなく、天に宝を積むことです。

私たち自身が何に関心を払うべきなのか、何のために生きるべきなのか、そのことをしっかりと考えて生きることが必要です。ノアの時代の人々は、残念ながら、自分の永遠について考えていませんでした。創造主なる神にお会いするその時のことを考えてはいませんでした。彼らの関心はこの地上のことだけでした。これが彼らがさばかれた理由だと言うのです。そのような人はたくさんいるし、そのようなクリスチャンたちもたくさんいます。

皆さん、もし、我々信仰者が神に喜ばれることよりもこの地上のことだけに心を馳せるなら、確実に、皆さんの信仰は弱っていきます。先程も話したように、最初の彼らの罪は「無関心」でした。信仰者であっても神に対して無関心になっていく可能性があります。神のみことばが教えてくれていることに対して無関心になっていく。教会に来てみことばを聞いていても、ただそれを聞くことだけが目的になって、それを理解し実践することが目的でなければ、いつまで経っても私たちは変わって来ません。ですから、彼らの大きな罪を最初に教えられますが、その罪は「無関心」、神のことに関心を払わない罪です。彼らはその罪を犯していたと見ることができます。

## 2. 不従順の罪 創世記6：5－7

このノアの時代の人々がさばかれた理由は、実は、ルカの福音書には記されていませんが、なぜ、彼らがさばかれたのか？それを知るためには、実際に、ノアの時代に戻って見るべきです。創世記6：5－7をご覧ください。「：5 【主】は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。：6 それで【主】は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。：7 そして【主】は仰せられた。「わたしが創造した人を地の面から消し去ろう。人をはじめ、家畜やはうもの、空の鳥に至るまで。わたしは、これらを造ったことを残念に思うからだ。」。ここに二つ目の罪を見て取ることができます。それは「不従順の罪」です。彼らは創造の目的に、また、創造主に逆らうという選択をしたのです。

### 1) 人の罪 5節

5節に彼らの罪が描かれています。

#### ◎地上に人の悪が増大し、

この「人の悪」とは「道徳上、また、倫理上の悪」です。なぜ、人々が道徳に反するようなことを行っていたのか？そのようなことが「増大している」と言いますが、その原因までもがここに書かれています。

#### ◎その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾く

その原因は「心」です。「その心に計ることがみな、」とあります。「心に計ること」とは「その人がしようとすること」です。その人の意図や考え思いです。つまり、心の中でしようとすることです。実は、この箇所をヘブライ語から直訳すると、「心のあらゆるしようとする考え」となります。ですから、みことばが教えることは、その当時の人々の心に問題があったと言うのです。その当時の人々の心は、何を考えていたのか、何をしようとしていたのか、何を思っていたのか？それは「いつも悪いことだけに傾いていた」のです。「心がそのような悪いことだけに関心を払ったゆえに…」とみことばは言います。

日本語で「いつも」と訳されていることばは「一日中」ということです。悪いことだけに傾く、悪のみを考える、ただ悪だけを考えていたということです。「一日中、悪いことだけを考えていた、悪いことだけを思っていた」と、そのように新改訳聖書は訳しています。参考のために別の訳を見ると、口語訳では「主は人の悪が地にはびこり、すべて、その心に思い計ることが、いつも悪いことばかりであるのを見られた。」と。また、文語訳聖書では「エホバ、人の悪の地に大いなると、其心（そのころ）の思念（おもひ）の都（すべ）て圖維（はか）る所の恒（つね）に惟悪（ただあし）きのみなるを見たまえり。」とあります。

確かに、難しいことばですが、言わんとしていることははっきりしています。人々の心が何を考えていたのか？それは「悪」しかなかった、彼らが考えていたのは「悪だけ」であったとみことばが教えるのです。その当時の人々がさばかれた理由、それがここに記されています。彼らの心が一日中、何を考えていたか？何を思っていたか？それは「悪」でしかなかったと言うのです。だれひとりとして、創造主なる神を喜ばせようとか、神のすばらしさを伝えようとか、創造主なる神の栄光のために生きようなどと思っていないのです。彼らが考えたことは、どうすれば自分の欲を満たすことができるか？ということだけで、彼らは一日中その心において汚れた悪い思いしかなかったと言うのです。それがその当時の人々の心だったと聖書は教えるのです。だから、世の中には悪が増大したのです。

#### \* 「心」が問題

「悪い心」は「悪い行ない」を生み出します。そのことはイエスご自身が話しておられます。マタイ 15 : 19 「悪い考え、殺人、姦淫、不品行、盗み、偽証、ののしりは心から出て来るからです。」と。どうしてそのような悪を行なうのか？心の中にそういう思いがあるからだと言うのです。ですから、信仰者の皆さんはよく分かっておられますね。私たちが変えなければならないのは行動ではないのです。その行動を生み出している「悪い心」なのです。心が正しければその正しい心は正しい行ないを生み出します。間違った行ないは間違った心が生み出すのです。ですから、この創世記6章のみことばを見たときに、どうして人々が悪を行ない続けていたのか？その原因は彼らの心にあったとみことばが教えています。人間は全く変わっていないのです。心が悪かったなら、必ず、行ないによって「心が悪い」ということが証明されるのです。

## 2) 神の悲しみ 6節

そのような人間の罪をご覧になっている神、5節に「ご覧になった」とあります。主なる神、創造主なる神が「ご覧になった」のです。人間の心をご覧になった、そして、その心が生み出している悪をご覧になったのです。神はどのような思いを抱かれたのか？6節にあります。「神の悲しみ」です。

◎地上に人を造ったことを悔やみ

◎心を痛められた

二つのことば「悔やんだ」と「痛められた」に注意してください。「悔やんだ」とは「悲しんだ」ということです。「痛められた」とは「非常に残念に思われた」、また、「苦しめた」とも言えます。ですから、創造主なる神はご自身が造られた人間の心を見、その心が生み出しているいろいろな行ないを見た時に「非常に悲しまれた」と記されているのです。みこころに沿って生きていない人間を見る時に、このように神は悲しく残念に思われ、神の心はそれによって非常に苦しめられるということです。このような表現を敢えて使っているのは、私たち人間に神のことを知らしめるためです。

### \* 神は、私たち人間の罪に対して悲しまれる

神は私たち人間が罪を犯す時に、それを見てただ見ぬ振りをされる方ではありません。悲しんでおられるのです。だから、思い出しませんか？パウロのことば、エペソ4 : 30 「神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。」。つまり、信仰者であるあなたが罪を犯す時に、神のみこころに反して生きる時に、神は心を痛めておられる、神は悲しんでおられると言うのです。ですから、私たち信仰者は気付かなければいけません。「罪を犯しても神は我々の罪を赦してくださったのだからそれでオーケーだ」ではありません。私たちの日頃に犯すいろんな罪、すべての罪に対して神は心を痛めておられるということを覚えるべきです。

生まれ変わったクリスチャンはそのようなことを選択したくないと思っています。なぜなら、生まれ変わった私たちのうちには、神の愛が与えられているゆえに、私たちは神を愛する者として生まれ変わったからです。神を愛するということは、神を喜ばせていきたい、それは神の命令に従っていくことであると知っています。だから、神の命令に逆らうその時には、神を悲しませる訳であって、私たちの心は痛むのです。確かに、みことばは私たちにこのような人間の罪を神はご覧になって、神はそれを悲しんでおられると、詩篇5 : 4に「あなたは悪を喜ぶ神ではなく、わざわざ、あなたとともに住まないからです。」とあり、神は聖いお方であって、人が罪を犯すときに悲しまれると教えています。

## 3) 神のさばき 7節

7節に神のさばきが記されています。ここには二つの動詞（造ったことを）「残念に思う」と「消し去ろう」が記されています。非常に大切な箇所です。

### \* 造ったことを残念に思う

神は人間の罪をご覧になって、そのことを非常に悲しまれ、そして、神が約束されたことは「彼らをさばく」ということです。神はご自身の栄光のために造られた人間が、その目的から完全に外れて自分のために生きている様子を見て残念に思われているということです。

### \* 消し去ろう

そして、「消し去ろう」と言われています。彼らを滅ぼすということです。そのことを神はここでこのようにお定めになったことが記されているのです。なぜ、神はそのような選択をなさったのか？皆さんもよくご存じのように「神は悪を憎まれるお方だから」です。ゼカリヤ書8 : 17に「互いに心の中で悪を計るな。偽りの誓いを愛するな。これらはみな、わたしが憎むからだ。——【主】の御告げ——」とあります。また、詩篇5 : 5には「誇り高ぶる者たちは御目の前に立つことはできません。あなたは不法を行うすべての者を憎まれます。」とあります。ですから、皆さんもご存じのように、神はどんな罪でもそれを悲しみ憎んでおられるのです。そして、人間はそれに対して必ず自らが精算をしなければいけないのです。

詩篇 1 : 6に「まことに、【主】は、正しい者の道を知っておられる。しかし、悪者の道は滅びうせる。」とある通りです。神は聖い正しいお方であり、罪の何一つないお方であり、すべてのどんな小さな罪をも憎んでおられ、そして、その罪に対して警告を与えておられるということです。必ず、罪はさばかれるという警告です。あのノアの洪水が明らかにしたように、必ず、神に対する罪は神によってさばかれるということです。神によって造られた人間が神のみこころに全く逆らい、自分の好き勝手に罪に罪を重ねているなら、そこには神のさばきがあるということのみことばは教えているのです。

#### 4) 主のあわれみ 8節

さて、その警告の後、8節をご覧ください。「しかし、ノアは、【主】の心にながっていた。」とあります。みことばは主はノアのことを喜んでおられたと言っているのです。なぜでしょう？それは彼の心が正しかったからです。続いて9節「これはノアの歴史である。ノアは、正しい人であって、その時代にあっても、全き人であった。ノアは神とともに歩んだ。」、ノアがどのような人であったのか？なぜ、神が彼を喜ばれていたのか、その理由が書かれています。ノアとは？

◎正しい人 : その当時の人々は正しくなかったのです。彼らは神の前を正しく生きていませんでした。彼らは自分の肉の欲するままに生きて、自分の好きなことをやっていたのです。でも、ノアは違っていたと、ノアは神の前に正しく生きたのです。その当時の人々と全く相反する生き方をしていました。

◎全き人 : このことばは「潔白で非難されるところのない人」です。世の中の人々は非難されてしかるべき、そのような生き方をしていたのです。彼らは罪に罪を重ねていました。しかし、ノアは非難されるところがない者であったと言います。なぜなら、彼は世の罪から離れようとしていたからです。

◎神とともに歩んだ : つまり、彼は神の前に常に従順であったということです。12節を見ると、世の中の人たちはどうだったか？「神が地をご覧になると、実に、それは、墮落していた。すべての肉なるものが、地上でその道を乱していたからである。」と書かれています。

つまり、9節のみことばはノアとそれ以外の世の中の人たちとが対比されていることを見ます。ノアは正しかったけれど世の中の人々は正しくなかった。ノアは非難されるところのない人だったけれど世の中の人たちは非難される人たちだった。ノアは神とともに生きたけれど世の中の人々は神とともに生きたなかったと。このようにノアとそれ以外の人々とを対比しています。もちろん、ノアのうちに罪がなかったということではありません。人間である以上みな罪を犯しています。但し、どうして神が喜ばれたのか？それは彼の心が正しかったからです。彼の心は神に対して開いていたのです。彼は神ご自身を受け入れていたのです。そのことは彼の行ないが証明していたのです。思い出してください。「心が悪いと行ないが悪くなる」と見ました。このような人々、この地上でさばかれた人たちは、実は、行ないが悪かったのです。何が問題だったのかと言うと「心」でした。みことばが言うのです。ノアは心が正しかったから、その心が正しいということが彼の行ないによって証明されたのです。

創世記 6 : 22に「ノアは、すべて神が命じられたとおりにし、そのように行った。」とあり、7 : 5にも「ノアは、すべて【主】が命じられたとおりにした。」と書かれています。彼は神の命令に従ったということです。その行為が彼の心が神の前に正しかったことを証明すると、みことばは私たちに教えるのです。彼の心が正しかった二つの具体的な例があります。

#### ◎二つの具体例

##### (1) 箱舟を造る 創世記 6 : 13 - 22、ヘブル 11 : 7

神から「このようにして箱舟を造れ」と言われます。そのことが6章の13 - 22節に記されていますが、14節に「あなたは自分のために、ゴフェルの木の箱舟を造りなさい。箱舟に部屋を作り、内と外とを木のやにで塗りなさい。」とあります。このようにして箱舟を造りなさいと言うのです。神からさばきの警告を聞いた時にノアは箱舟を造ったのです。皆さんにぜひ覚えておいていただきたいことは、この当時、ノアが生きていた当時、雨が降ることはなかったのです。ですから、この後「大洪水だ」と言ったときに主はここで説明するのですが、ノアには「雨」が何なのか分からないのです。雨のない時代だったからです。そのとき、神が命じたことは「洪水が起こるから箱舟を造りなさい」でした。驚くべきことは、ノアはその命令に従うのです。ノアはこのさばきの警告を聞いた時に、主のことばを信じてその命令に従ったのです。新約聖書のヘブル書 11 : 7に「信仰によって、ノアは、まだ見ていない事らについて神から警告を受けたとき、恐れかしこんで、その家族の救いのために箱舟を造り、その箱舟によって、世の罪を定め、信仰による義を相続する者となりました。」と書かれています。

洪水など経験したこともないのです。私たちは何度も見えています。もちろん、このような世界規模の洪水は見たことはありませんが…。「ノアは、まだ見ていない事らについて神から警告を受けたとき、恐れかしこんで、その家族の救いのために箱舟を造り、」と、神の命令に喜んで従ったのです。しかも、この箱

舟を造るのに120年間かかっています。でも、ノアは信仰をもって箱舟を造り続けるのです。

## (2) 義を宣べ伝えた II ペテロ 2 : 5

ノアは120年間箱舟を造り続けるのですが、多くの人々は「ノア、何を造っているのか？いったい、何をしているの？洪水が来る？何を言ってるのだ！」と。見たことも聞いたこともない話に人々は嘲笑ったことでしょう。しかし、ノアは120年間造り続けるのです。その間、ノアは自分のことを嘲笑う人々に対して神のさばきを警告し、救いを宣べ伝えるのです。そのことがII ペテロ 2 : 5に記されています。「また、昔の世界を赦さず、義を宣べ伝えたノアたち八人の者を保護し、不敬虔な世界に洪水を起こされました。」「ノアたち八人の者」とは、ノアの三人の娘たちとその婿たち、そして、ノアの妻です。神はこの八人を保護したのです。彼らは洪水に遭わなかった、さばかれなかったのです。その理由は、彼らは「義を宣べ伝えた」と書かれています。つまり、この120年間、ノアは自分の家族に話したのでしょう。そして、家族も同じように神の義について、神について、救いについてメッセージを語るのです。

こうして見た時に、皆さん、このノアの家族は人から何を言われようとも、神が約束されたそのさばきが来るということを信じてそのための備えをしました。心の中でいろんなことを疑ったかもしれませんが。「こんなに晴れているのに雨が降るなんて…、雨なんて降ったことがないのに、神は洪水が来ると言われたが、洪水なんて…」と疑うことがあったかもしれません。でも、彼らはその中で神を信じ、神の約束を信じて従順に従ったのです。彼らは神が警告されたさばきに遭う備えをしていたのです。そのことは彼らの生き方が明らかにしたのです。ノアたちの心の正しさはこのような生き方が証明したのです。これはどの時代でも変わりません。

私たちはその「実」によってそれぞれの救いが判断できるとみことばは言います。なぜなら、「実」とは「行ない」であり「生き方」だからです。救われた者たちのうちには神によって「御霊の実」が与えられています。「愛、喜び、平安、寛容…」という実がその人のうちにあるのです。その実が存在していることはどうしてわかりますか？その実が成長することによってです。つまり、愛において成長することによって、喜びにおいて成長することによって、確かに、その人のうちにその実が存在していることが明らかになるのです。

信仰とは神によって与えられる恵みです。神がその人のうちに与えてくださる信仰は、その人のうちで実を实らせていきます。その人の生き方が変わって来るのです。そして、その人の心が聖められて正しくなったということは、その人が生み出す正しい行ないによって明らかにされていくのです。正しい行ないによって救われることは決してありませんが、救われた人には必ず神が喜ばれる正しい行ないが付いて来るのです。ノアを見た時に、なぜ、彼の心が正しいと分かるのか？彼の行ないがそれを証明したからです。

### \*そして、ノアとその家族はさばきから救い出された

皆さん、この120年間、神は何をされていたのでしょうか？神はノアの家族以外の者をあわれまなかったのでしょうか？いいえ、あわれんでおられたのです。なぜなら、120年間、ノアは箱舟を造り続けていたのです。神はさばきから救い出す機会をすべての人に与えておられました。それは、

### ◎箱舟の建造

### ◎ノアの警告

です。人々は箱舟の建造の様子を見ていました。そして、彼らは神からの警告を聞いていたのです。箱舟が造られていくということは、「必ず、さばきが来る」という人々に対する神からのメッセージでした。しかも、120年もの間、神はそうしてノアを通して人々に警鐘を鳴らし続けたのです。神に愛がないのでしょうか？私たちの想像をはるかに超えた愛をもっておられます。神の忍耐というのは、私たちの忍耐とはレベルが違います。こうして120年もの間、神に逆らい続けている人々、神の前に罪を犯し続けている人々をあわれみ、彼らに救いのチャンスを与えておられるのです。ところが、人間はその救いを選択しませんでした。神の前に悔い改めようとしませんでした。彼らは神に逆らい続けるという選択を繰り返すのです。

### \*神は彼らに対して忍耐深くあられた

神の忍耐に関してペテロはこのように言っています。I ペテロ 3 : 20「昔、ノアの時代に、箱舟が造られていた間、神が忍耐して待っておられたときに、従わなかった霊たちのことです。わずか八人の人々が、この箱舟の中で、水を通して救われたのです。」と。人間の罪を見て神は心を痛めておられた。そして、神は心の聖い方であるゆえに、その罪をさばくと警告され、さばきを約束されたのです。しかし、それでいてなお、神はその罪人が悔い改めてこの救いに与るように忍耐をもって待っておられたのです。その結果、私たちは救われたのです。どれ程、私たちは神に逆らい続けて来たことか？それでも神は忍耐をも

って待ってくださっていたのです。この時代もそうだったのです。箱舟が造られている120年もの間、神はさばきを下すことを待ったのです。でも、だからといって、さばきが無くなったのではありません。さばきは実際に起こったのです。なぜなら、神は罪を憎まれ、罪を必ずさばかれるお方だからです。しかし同時に、救いを求める者にこの救いを与えてくださるお方でもあるのです。それ程、愛とあわれみに満ちあふれたお方です。

さて、今日、我々はノアの生活を見、また、彼の時代に起こった神からのさばきを見て来ました。私たちがこのレッスンを通して学ばなければいけないことは、一人ひとりはこの神のさばきに対して備えを為すということです。まだ、神の前に心を開いておられない方、神が備えてくださった救いをお受けになっていない方、神に背を向け神の敵として歩んでいる皆さん、あなたはこの神の警告に耳を傾けなければいけません。神は必ずさばきを下されます。今日見て来たノアの洪水はそのことの証明です。あなたに必要なことは、この罪の赦しが与えられる間に、この救いを心から頂くことです。そのチャンスがまだ残っている間に、この救いを頂くことです。それが神に会う備えを為すということです。

クリスチャンの皆さん、あなたにとって大切なことは何か？神に会う備えをあなた自身もしなければいけないのです。あなたはさばきを恐れて生きるのではありません。さばきはもう確かにあなたから取り除かれた。しかし、だからといって、さばきがないわけではありません。あなたは神の前に立ちます。信仰者としてどのように生きたかが神によってさばかれます。だから、信仰者であるあなたが覚えなければいけないことは「あなたの心が正しいかどうか」です。詩篇51：16、17をご覧ください。

「：16 たとい私がささげても、まことに、あなたはいけにえを喜ばれません。全焼のいけにえを、望まれません。」、「でも、神さま、あなたはそれを命じたではないですか？いけにえをささげなさいと…」、でも、ダビデはそんなものを神は望まれないと言います。神が一番望んでおられるのは、「：17 神へのいけにえは、砕かれた霊。砕かれた、悔いた心。神よ。あなたは、それをさげすまれません。」です。

神があなたに教えておられることは、クリスチャンであるあなたは神にお会いする備えを為さなければいけないのですが、あなたが心からすべてのことを神のために為しているかどうか？です。義務的にやっていますか？しなければいけないから…、言われたから…、本当はやりたくないけれどやらないといけなから…と。残念ながら、そのような働きは何一つ神の前に喜ばれないし、何一つ、神から賞賛を頂くことはないのです。しかし、もし、あなたが神を愛して「神さま、喜んであなたのためにしたい。あなたにお会いするまでどれだけ地上にいるか分からないけれど、少なくとも、この日をあなたのために生きていきたい。あなたのためにすべてのことをしたい。私の為すことすべてを通して、あなたのすばらしさを人々に証したい。あなたが喜んでくださることを考え、行なっていきたい。神さま、そのように生きたいと願っているから、どうぞ、助けてください。」と。そうしてあなたがその日を歩むなら、罪を犯したならそれを悔い改めて、そして、神に従い続けて行くなら、心を見ておられる神がそれを喜んでくださるのです。

ノアはどうして神に会う備えが出来ていたのか？彼の心が正しかったのです。彼は神とともに生きたのです。皆さんはどうでしょう？神の前に正しさを求め、そして、人々から非難されないような歩みをしていらっしゃいますか？周りの人々があなたを見た時に、「あの人はこの点が問題だ」と人から非難されるところがないかどうかです。それならそのような問題となるものから離れることです。そして、神とともに歩み続けることです。神の臨在を意識しながら、神に喜んで頂くことを望みながら、神とともにその日を歩み続けることです。ノアはそのようにして生きたのです。このようにして彼にはさばきに対して備えが出来ていることを証明しました。

私たちがそのように生きるべきだとみことばは教えてくれます。どうぞ、信仰者の皆さん、心が聖められているならそのように生きることです。神が喜んでくださることを考えながら、そのように生きることです。そうして私たちの感謝を表わしていきましょう！このすばらしい救いは神からの一方的な恵みなので、それを喜び感謝し、それを私たちは行ないをもって表わしていきたくて願います。

どうぞ、そのように歩み続けてください！

#### 《考えましょう》

1. 「人の子の日」の説明してください。
2. 主なる神が「ノア」のことを喜んでおられた理由を挙げてください。
3. 「ノアの洪水」で滅んだ人々の問題が何であったかを記してください。
4. 「主に会う備え」が出来ている人の生き方を説明してください。